

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策1  
県民の総力を結集できる行政の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 広報室長 平野英夫 電話番号 22-5769

事務事業の名称	県政情報提供事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	テレビ・ラジオ・広報誌・ホームページなどを媒体として県政情報をリアルタイムにわかりやすく伝えることにより、県民の県政への関心を向上させる	
事業概要	県政の主要施策や県内の状況などを伝えるために、広報誌「フォトしまね」の発行、新聞広報「考える県政」・「県民だより」の掲出、テレビ広報「もっと×もっとしまね」・「情報カフェしまね」・「テレビスポット」・「特別番組」の放送、またラジオやインターネットを通じた広報を行う。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県政世論調査における県の広報に対する満足度の割合	目標値		60.0	60.0	60.0	60.0	%
	式・定義 県政世論調査において、「満足している」「どちらかという満足している」と答えた人の割合	取組目標値						
		実績値	52.8	55.9				
		達成率	-	93.2	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	217,005	212,737
うち一般財源 (千円)	214,845	210,577

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

H28広報活動に対する県民の満足度は、松江（+1.8%）、（雲南（+8.7%）、出雲（+0.2%）、大田（+11.8%）、益田（+2.2%）、隠岐（+15.5%）の7圏域で向上した一方で、浜田（-0.3）圏域が満足度の下降した。全体では満足度が3.1%向上し、55.9%となった。年齢階層別では、20代（-2.5%）、30代（-7.8%）で下落し、40代（+8.3%）、50代（+3.9%）、60代（+2.8%）、70代（+3.9%）で改善している。若年層20代～30代で満足度が落ち込む傾向がある。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

全体の満足度は改善した（+3.1%）。そのうち、「満足している」（+1.2%）と「満足している」がそれぞれ改善（+1.9%）しており、満足の質が向上している。また、「見たこと、聞いたことがないのでわからない」と回答した者が減少（-1.7%）している点も成果と考える。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

県西部、隠岐の満足度向上。  
若年層20～30代と50代の満足度向上。

### ②困っている状況が発生している「原因」

広報誌などでは、圏域バランスに配慮した内容とするよう努めてきたところ。一方、お知らせ情報ではイベントなどの開催が多い東部の維持に偏る傾向があり、県西部や隠岐の記事が相対的に減る傾向があるため、その満足度の落ち込みにつながっている可能性がある。  
若年層20～30代の満足度が他に比べて低いのは、ニーズに合った情報の不足と、若年層が多く利用する媒体（SNS等）での発信が弱いことも考えられる。

### ③原因を解消するための「課題」

圏域バランスへの配慮  
年代別の県政情報への期待及び使用媒体を分析

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

県民に向けた県政情報の発信について、広報する内容の決定に際しては、県西部や隠岐のニュースについても情報収集に努め、引き続き圏域バランスを考慮した記事構成に努める。  
また、年代別のニーズをWebモニターアンケートなどから把握し、記事構成に努める。高齢者には、紙媒体やテレビでの情報の提供が有効と思われるため、引き続き発行部数や放送時間の確保を行う。  
なお、広報誌などを読まないことが多い世代に向けては、スマートフォンやパソコンなど多様な情報提供方法についての検討を行う。